

ごあいさつ

氷川町は、平成17年10月1日に竜北町と宮原町が合併して誕生しました。旧2町の中央部を流れる『氷川』が町の由来です。本町は、立神峡や竜北公園、道の駅「竜北」などの観光資源を有し、火の国発祥の地といわれる幾多の歴史・文化があり、いちご・梨、イ草などの農業が盛んな自然豊かなところです。

合併して12年目を迎え、これからも小さな町の利点を生かし、住民と行政がそれぞれの役割を果たし、協働して安心して暮らせ、幸せを実感できる氷川町を創造してまいります。また、先人先輩たちがこれまで築き上げられてきた有形・無形の地域の宝を継承し、さらに発展していくことが私たちのこれからの使命であり、次世代に対する責務であると考えます。

このパンフレットは、『氷川町の教科書』と題して、町民の皆さんを『先生』として各分野について紹介していただいています。このパンフレットをより多くの皆様にご利用いただき、本町への理解と関心を深めていただくとともに、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

氷川町長 藤本 一臣



町章

『ひ』を活かし、幸せと平和を呼ぶ青い鳥の飛翔するイメージをデザイン化。『ひ』の右側を3本にして『ひ』と『川』を一体化し、右肩上がりにする事で氷川町の町勢や町民の向上発展を表現しています。



氷川町キャラクター『ひかりん』

氷川町の『ひ』をモチーフに町花である『桜』を配し、情熱的な赤で擬人化。将来に向けて、更なる発展・繁栄する明るい元気な姿を力強くアピールしています。



町花 桜

氷川町には、各所に桜の名所があり、町民に愛され親しまれてきました。春になると里山から平野部の一帯がピンク色に染まり、人々の心を楽しませてくれます。その美しく華やかな姿は、町の明るく豊かな未来を象徴しています。



町木 梨

氷川町には、熊本県の『梨の発祥地』で、100年以上の歴史があり、天皇陛下に献上されたこともある特産品です。『吉野梨』のブランドは、全国的にも知名度が高く、町を象徴する木として親しまれています。



町鳥 つばめ

つばめは、古くから日本人に親しまれてきた鳥で、『つばめが営巣する家は栄える』と言われていました。子育てに熱心で、つがいで行動し、渡り鳥として古巣に帰る姿は、家族や故郷を大切に、さまざまな地域との交流による町の発展と飛躍を象徴しています。

氷川町の位置・地勢

氷川町は、熊本県のほぼ中央、熊本市から南へ約30キロメートル、八代地域の北部に位置し、北は宇城市、南は八代市に接しています。

町の中央部を東から西へ2級河川『氷川』が流れ、南北に走る国道3号を境に、東部に山林、丘陵地帯、西部には『西の八郎潟』として名を馳せる『不知火干拓』をはじめとした平坦地帯が広がる総面積33.3平方キロメートルの町です。



氷川町へのアクセス

阿蘇くまもと空港から

車で 益城熊本空港ICから宇城氷川スマートICまで30分
バスで すーぱーばんべいゆ号で新八代駅まで50分 → 車で20分

博多駅から

新幹線で 九州新幹線で新八代駅まで50分（熊本駅経由で記載） → 車で20分

鹿児島中央駅から

新幹線で 九州新幹線で新八代駅まで50分 → 車で20分